

「沈黙は金？」

眞子さまと小室さんがついに結婚した。先日の結婚会見と文書による回答を聞いて、釈然としない思いを持った国民は多数いたのではないか。会見では、皇室行事の中止や秋篠宮さまへの切実なお詫びもなかった。二人は小室騒動をメディアによる誹謗中傷と断じ、結婚問題の深刻化の原因があたかもメディアにあるとし、その苦境の中でも二人の愛を貫いてきたという主張に思えた。故に、言葉はほとんど抽象的であった。

確かにお二人が変わらぬ気持ちを持ち続けられたことは素晴らしいと思うし、結婚も祝福したい思いである。しかし、なぜこの問題が皇室も巻き込んで深刻化したのだろうか？

それは、私は小室さんが唐突に渡米し、3年間沈黙を守ったことが最大の問題であったと思っている。秋篠宮ご夫妻は小室騒動の当事者である彼に、それ相応の対応を望まれた。だが彼は、たとえ眞子さまの意向もあったかもしれず、また将来の生活に向けてのキャリアを磨く必要もあっただろうが、4月の28枚の弁明的な文書まで本当に何も語らなかった。「眞子さまへの変わらぬ気持ち、母の金銭問題の事実と解決、メディアの対応」を遠く米国から、時には誠実に真摯に、そして時にはメディアには怒りをもって、堂々と正面から国民に向かって説明すべきであった。それこそが愛する眞子さまを体を張って守るということに他ならない。

本当に「沈黙は金」なのか？

この格言は、実は「沈黙は金なり、雄弁は銀なり」である。まだ金より銀のほうが価値が高かったころに生まれた格言という説もあり、沈黙こそ最大の美德とされたわけではない。多くを語るより、時には語らずを実行することもベターな選択であるという意味がある。

政治家、官僚、企業トップなど問題が発覚しても、説明責任を回避し真実を語らないのが今の日本の状況である。小室氏もその手法を選択し、結果的に眞子さまを誹謗中傷(?)から守ることができなかった。だから、会見の冒頭で「眞子さまを愛している」と言わざるを得なかったのではないか？

テレビで小松左京の「日本沈没」を現代風にアレンジした連続ドラマが始まった。官僚たちの戦いが見え隠れしている。日本が地政学的に沈没することなどないが、政治、経済、文化、教育、そして皇室で、日本沈没が確かに進みつつある。

眞子さま、小室さんに幸あれ！

(丹羽 豊)